

KINSYO HANDBALL

令和3年度 高校総体3位



令和3年6月3日（木）～6日（日）小松総合体育館でおこなわれた高校総体3位決定戦は春季大会に続く激戦となった。春季大会では中心選手が怪我のために欠場できず、その穴を下級生が埋めてくれた。次の試合は万全の状態でのぞもうと考えていた矢先に、エースが怪我をしてしまった。（大会一週間前）この事態にエースが出場できないことを想定し、下級生が代役を務める練習を繰り返してきた。それが結果的にはチームの総合力をあげることに繋がった。

北信越代表決定戦の前半は一進一退の攻防が続き、怪我をしていたエースが活躍。しかし、後半に入り練習不足が影響し、ふくらはぎを痙攣。二人のレギュラー選手の代役を務めてきた下級生が活躍。しかし、後半は猛攻に遭い、点差が徐々に縮まり、二点差まで追い上げられて苦しい展開に・・・。

今年の三年生は中学時代にバスケットボールやソフトボール、バレーボールなどをしてきた生徒が多く、ハンドボール経験者は2名。新チームのスタート時から最弱チームと言われ続けてきた。ライバルチームに対して、新人大会は10点差で大敗。北信越石川県予選会は5点差。今年2月の金沢新人大会は同点でタイムアップ、ペナルティの末に敗北。なかなかライバルチームに勝てず苦しい思いをしていた。そんな中、春季大会（4月）、高校総体（6月）と万全の状態ではない中で、チーム全員が一丸となって戦う雰囲気が出てきたのは『怪我の功名』かも知れない。『誰かが怪我をしたらカバーをする』というあたり前のことをチーム全員が共有して、控え選手が準備をしてくれていたからこそ、チームの一体感が生まれたのではないかと・・・。試合後、選手たちはもちろんのこと、選手を影で支えてくれたマネージャーも集まり、皆で大泣きしていた姿が忘れられない。

今年のチームを振り返るとチーム結成時は『最弱チーム』と言われたチームであったが、チームの『結束力は最強』かもしれない。下級生は上級生の試合をどのような思いでみていたか・・・。

北信越大会（新潟県柏崎市）の活躍もとても楽しみである。